

丹波地域 掲載企業一覧

※企業名クリックで掲載ページにジャンプします。

企業名	所在地	企業概要
大地農園	丹波市	プリザーブドフラワーで国内トップ
西山酒造場	丹波市	清酒「小鼓」で海外市場にも進出

知ってる？

丹波の魅力

丹波は、兵庫県の中央東部に位置する篠山市と丹波市からなり、北東では京都府と接しています。山々が連なる間に盆地状の地形がつくられ、年間を通じて昼夜間の寒暖差が激しく、秋から冬にかけて発生する「丹波霧」は豊かな緑を幻想的に覆います。こうした特有の気候風土により育まれる「丹波黒大豆」「丹波栗」「大納言小豆」「丹波山の芋」などは丹波ブランドとして全国に知られ、重宝がられています。

昔ながらの農村風景や城下町のまちなみが残されていることも丹波の特徴です。篠山城の城下町として栄えた伝統文化や時代ごとの風土や生活を唄に読み込んだデカンショ節の世界が現代に息づいていることが評価され「丹波篠山 デカンショ節 民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」は文化庁の日本遺産に認定されました。

2006年8月に丹波市山南町の川代溪谷で中生代白亜紀前期(1億1千万年前)に繁栄したティタノサウルス形類の恐竜化石が発見され、大きな話題となりました。「丹波竜」という名前が付けられ、丹波の歴史の壮さを感じさせるとともに、新たな観光資源として人気を集めています。

また2017年、新たに日本遺産の認定を受けた日本六古窯の一つ「丹波焼」は、その発祥が平安時代末期までさかのぼり、登り窯と蹴りロクロ(左回転ロクロ)とともに、伝統技術を今に受け継いでいます。

そして、丹波の強みはこれら豊かな地域資源を持ちながら、阪神間から鉄道や自動車ですら約1時間半の圏域に位置していることです。単に都心部から丹波に週末に遊びに行くというだけでなく、丹波の魅力にひかれた若い人たちが移り住んで、古民家を改装してカフェをオープンしたり、空き家に移住して農業を始めたりといった事例が増えつつあります。



今に息づくデカンショ節にうたわれた世界

文化庁が2015年に創設した「日本遺産」の第1回目に、篠山市が申請した「丹波篠山 デカンショ節―民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」が認定されました。

「日本遺産」は、地域の文化・伝統を語るストーリーを認定し、そのストーリーに沿った文化財群を国内外へ発信することを通して地域の活性化を図る制度です。篠山で江戸時代から歌い継がれてきた「デカンショ節」には、時代ごとの風土や人情、名所、名産品などが歌詞に盛り込まれてきました。そして今や300番にも上る「デカンショ節」の歌詞の世界が今なお篠山の町並みや史跡、文化の中に息づいています。



例えば、デカンショ節に「並木千本 咲いたよ咲いた 濠に古城の

影ゆれて」をはじめ歌詞の中で多く歌われる篠山城跡は、1609（慶長14）年に徳川家康が旧山陰街道沿いに築いた城で、2000（平成12）年に大書院が復元され、一般に公開されています。

「夜霧こめたる 丹波の宿の 軒におちくる 栗の音」は、江戸時代、旧山陰街道に本陣が置かれ、にぎわいを見せた宿場町とそこに連なる茅葺農家群の景観を今に伝えています。「嫁がほしゅうて 轆轤を蹴れば 土はくくる 壺になる」は、日本六古窯として知られる丹波焼のことで、現在も約60軒の窯元が丹波焼を生産しています。2017年には、デカンショ節に続き、六古窯の他の



登り窯の高温焼成により生まれる独特の風合いは、丹波焼の芸術性を高めている

産地とともに日本遺産に認定されました。

また、「灘の名酒は どなたがつくる おらが自慢の 丹波杜氏」は、日本一の酒どころ灘の酒造りを支えた職人、丹波杜氏を指しており、今なおその歴史は酒造りに生かされています。

丹波ブランド、新規就農者も呼び込む



盆地状の地形が生み出す丹波霧は、幻想的な風景を演出するだけでなく、豊かな農作物も育む

丹波地域には、盆地状の地形がもたらす丹波ならではの気候風土と豊かな土壌にはぐくまれた特産物が数多くあり、丹波ブランドとして全国に知れ渡っています。その代表格が「丹波黒大豆」。外観は球形で大粒、口当た

りは滑らかで、もちもちと粘り気があり、甘みも強いのが特徴です。煮炊きしても皮が破れにくく、正月用の祝い豆として重宝されています。このほかにも、江戸時代から特産として栽培され、肉質が緻密で非常に粘り気強い「丹波山の芋」、朝夕の温度差が生み出す朝霧の適度な湿度に育まれ、強い香りとしっかりした食感を持つ「丹波のマツタケ」、大粒で煮崩れせず、色合いと風味に優れた高級和菓子などに使われている「丹波大納言小豆」、粒が非常に大きく上品な甘みを持つ「丹波栗」と枚挙にいとまがありません。

兵庫県も、丹波の特産物をより多くの人に知ってもらうため、農業の担い手育成や、消費の拡大、食品表示指導など「丹波ブ



「丹波黒大豆」「丹波栗」「大納言小豆」「丹波山の芋」などは、丹波ブランドとして全国に知られている



鉄道や高速道路の利用で都市圏との往来がしやすいことも丹波の魅力だ

自然に囲まれた豊かな環境でテレワークを実践する人、古民家を借りてカフェを開業した人…。企業も丹波ブランドに注目しています。大阪の人気ジーンズメーカーは、篠山市内で栽培した高品質の綿花を使った限定ジーンズを製造する取り組みで話題を呼びました。

他エリアから注目を集めている丹波の魅力を地元若い人にも感じてもらうとさまざまな取り組みが行われています。文部科学省から3年連続でSGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイト校の指定を受けた柏原高校では、地域が抱える課題の解決を通して国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成することを目標に、里山、地域医療、防災、Uターン・Iターンなどの研究を通して、地域愛を育んでいます。



2006年に白亜紀の恐竜・ティタノサウルス形類の化石が発掘され、丹波竜として地域のシンボルになりつつある

然の博物館は、丹波竜を新属新種と認め、学名を「タンバティタニス・アミキティアエ」と名付けました。国内で化石が発見された恐竜では5例目で、推定体長は12メートルと国内最大級です。その後の調査で

頭骨やろっ骨、歯、世界でも珍しい脳畔など約2万点の化石が見つかっています。

山南住民センターの1階に2007年12月1日に開設された「丹波竜化石工房」では、発掘した化石のクリーニング作業を見学でき、丹波竜の資料なども多数展示されています。第1次発掘調査で産出された化石のレプリカのほか篠山層群で産出した恐竜化石を含む泥岩、恐竜の生活の証拠を残した生痕化石のほか、丹波竜の解説パネルなども展示され、新たな観光施設として人気を集めています。

たくさんの方の移住者呼び込む多彩な魅力

様々な歴史的資源、豊かな自然に恵まれた丹波地域は、神戸・阪神間から車、鉄道を使って約1時間半の圏域にあることが都会に住む人をひきつけています。週末に農業を楽しみにやってくるだけでなく、近年は移住者も増えています。保育士として働いた経験を生かして「里山保育」の実践を模索する人、



古民家を利用したカフェの経営など、丹波らしさに価値を求めて移住する人も増えつつある